

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 瑞穂野南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 23 人

② 算数 23 人

5 留意事項

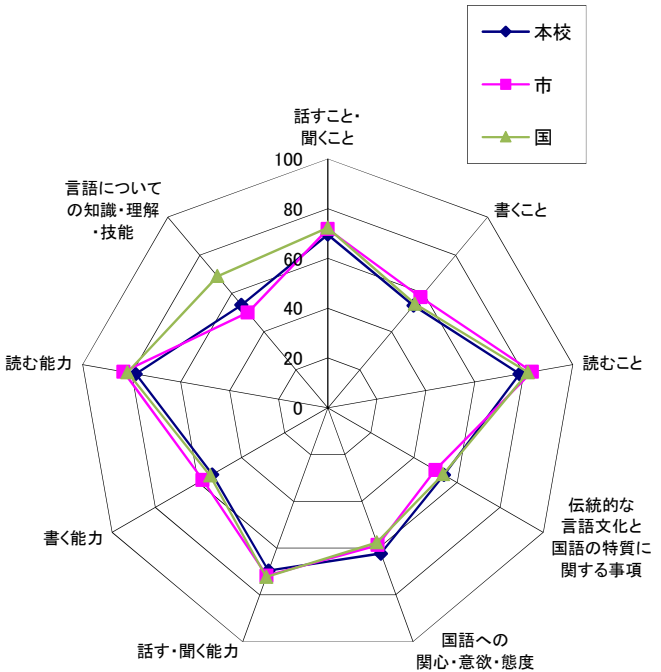
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	69.6	71.8	72.3
	書くこと	53.6	58.0	54.5
	読むこと	78.3	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	53.9	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	62.3	58.7	57.6
	話す・聞く能力	69.6	71.8	72.3
	書く能力	53.6	58.0	54.5
	読む能力	78.3	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	53.9	50.0	69.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

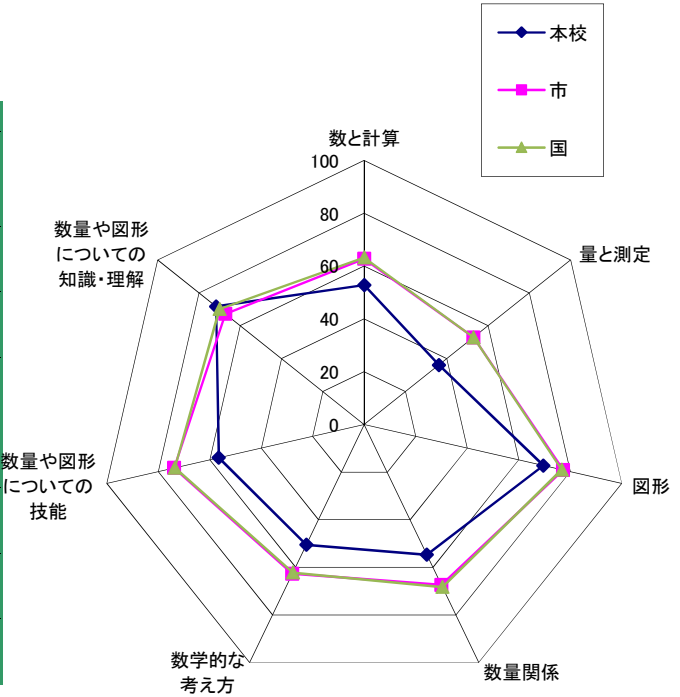
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・平均正答率は、69.6%で、市の平均を2.2ポイント、全国の平均を2.7ポイントともに下回っている。 ○話し手の意図をとらえながら聞き、自分の考えをまとめる問題の平均正答率は82.6%であり、全国の平均を14.4ポイント上回り、よく理解している。 ●話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿って自分の理解を確認するための質問を選択する問題は、国の平均を11.7ポイント下回っており、課題が見られる。	・話し合いをする際には、話をする内容ばかりに関心を向けるのではなく、話の疑問点を整理、確認しながら質問もできるように指導していく。 ・話し手の意図を正しく理解するためには、それまでの会話をよく理解しながら聞くことが大切であることを、学習の際におさえて繰り返し指導する。
書くこと	・平均正答率は、53.6%で、市の平均を4.4ポイント、国の平均を0.9ポイントともに下回っている。 ・情報を相手にわかりやすく伝えるための記述の仕方の工夫をとらえる問題や、目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く問題では、平均が30.4%と県の平均とほぼ同じ正答率である。 ●図表やグラフなどを用いた目的をとらえる問題では、県の平均を5.2ポイント、国の平均を6.0ポイント下回っており課題が見られる。	・授業において、相手にわかりやすく伝えるための記述の仕方の具体的な工夫の指導や、目的や意図に応じて、自分の考えを明確にしてから記述する指導を引き続き行っていく。 ・図表やグラフを用いる際には、目的を明確にさせる。 ・社会科の学習で、資料の読み取りを行う際にも、資料からわかることについてノートにまとめたり、話し合ったりする機会を充実させる。
読むこと	・平均正答率は、78.3%で、市の平均を5.0ポイント、国の平均を3.4ポイント下回っている。 ・目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む問題では、正答率が82.6%であり、市の平均を7.6ポイント下回っている。 ●目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む問題では、市の平均を4.3ポイント、全国の平均を2.0ポイント下回っている。	・様々な文章(物語、説明文等)を読む機会や、読解力を問う問題に触れる機会を、これからも意図的に増やして指導していく。その際に、自分の考えを明確にしながら読むように指導していく。 ・読書を推奨するだけでなく、いろいろな分野の本と触れ合えるように指導していく。 ・説明文を学習する際に、筆者の問いとその答えとなる内容を読み取って、まとめる学習をしっかりと積み重ね、指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・平均正答率は、53.9%で、市の平均を3.9ポイント、全国の平均を0.4ポイントともに上回っている。 ○漢字の書き取り問題では、市の平均を17.9ポイント上回っている問題もある。 ●文と文との意味のつながりを考えながら、接続詞を使って内容を分けて書く問題の平均正答率が、市の正答率を17.5ポイント下回っている。	・漢字を正しく書くこと、正しく読むことの両方に重点をおき、これからも継続して指導していく。特に既習の漢字を日常生活の中でも積極的に使うよう指導していく。 ・説明文を読む際には、特に接続詞に注目させて文のつながりを意識して読むよう指導していき、理解の定着を図る。

宇都宮市立瑞穂野南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	52.8	62.7	63.2
	量と測定	36.2	52.9	52.9
	図形	69.6	77.3	76.7
	数量関係	54.7	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	50.5	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	56.5	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	71.7	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・平均正答率は52.8%で、市の平均を9.9ポイント、全国の平均を10.4ポイントともに下回っている。 ○工夫して引き算をする方法を答える問題では、平均正答率は82.6%で、市の平均を0.4ポイント上回っている。 ○工夫して割り算の計算をする方法を答える問題では、平均正答率は43.5%で、市の平均を1.3ポイント上回っている。 ●足し算、かけ算、整数、小数が混合した計算では、平均正答率は30.4%で、市の平均を29.9ポイント下回っている。	・計算は、四則の法則を再度指導するとともに、計算を正確にできるよう繰り返し習熟を図っていくようにする。また、小数点をそろえて計算するなど、基本的な計算の技能を身に付けられるように繰り返し練習させ、定着を図っていく。 ・新しい単元に入る前には、前学年で学習した内容を復習してポイントを押さえるなどしてから、取り組むようにする。
量と測定	・平均正答率は36.2%で、市や国の平均を16.7ポイント下回っている。 ・2つの棒グラフからわかることを選び、理由を記述する問題では、市の平均正答率を6.53ポイント下回っている。 ●ボールの数からレジまでに進む時間を考える問題では、平均正答率は34.8%で、市の平均を27.6ポイント、国の平均を27.8ポイントともに下回っている。	・場面の状況から単位量当たりの大きさを考えさせるために、問題から読み取れた情報を図に書き込むことを様々な問題で繰り返し指導し、学習内容の定着を図っていく。 ・問題の文章に書かれている数字やポイントとなる言葉を自分で見つけ、それらを四則の計算方法のどれを用いたらよいか考えるよう、繰り返し指導していく。
図形	・平均正答率は69.6%で、市の平均を7.7ポイント、国の平均を7.1ポイント下回っている。 ○4つの図形の中から台形を2つ選ぶ問題では、平均正答率は100%で、市の平均を7.8ポイント上回っている。 ●2つの合同な図形を使ってできる形を選ぶ問題では、平均正答率は市の平均を23.2ポイント、国の平均を20.9ポイントともに下回っている。	・図形の性質や構成要素に着目し、図形をずらしたり回したり裏返したりしたときの形を確認し、どのような形ができるかを繰り返し練習する。 ・辺の長さのマス目を数えるなど、丁寧に問題を解いていくことや、見直しをしっかりとすることの大切さを繰り返し指導していく。
数量関係	・平均正答率は54.7%で、市の平均を12.7ポイント、全国の平均を13.6ポイント下回っている。 ●棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取る問題では、市の平均を9.3ポイント下回っている。 ●法則を活用して、計算する問題では、平均正答率は市の平均を29.9ポイント、全国の平均を29.7ポイント下回っている。	・算数の時間だけでなく、他の教科の学習においても、言葉や数を使って数の変化を説明する機会を設定し、理解を深めるしていく。 ・社会科などで資料を活用する際にも、教師が様々な観点から資料を読み取るための発問をするなどして、グラフを読み取る力を高めていく。 ・四則の法則を使って解く問題を、繰り返し練習し、習熟を図っていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○全般的に、どの項目においても、肯定的回答の割合が県や全国を上回っており、学校や家庭生活において充実していると考えられる。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「自分にはよいところがある」「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」等の項目において、肯定的回答の割合が、ほぼ100%となっており、自己肯定感が高いと考えられる。

・肯定的回答率が高い項目については、今後も意識の継続が図れるように指導と支援をしていく。

●「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」の項目において、月1回程度と回答した割合が約70%となっており、県と全国平均を上回っている。「授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いませんか」の項目では、活用したいと回答している割合が約80%となっているので、ICTを活用した授業を望んでいると考えられるので、さまざまな活動において、必要に応じて取り入れ、活動の充実を図れるようにしていく。

●全体的に肯定的回答率が高いが、項目によっては、肯定的回答が低い児童も少数いるので、普段の生活や授業等で支援するとともに、教育相談等を通して話を十分に聞く配慮をしていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	3年生以上は、宿題以外にも各自で自分に合う課題を考えて、毎日家庭学習に取り組むよう指導している。家庭学習ファイルに毎日の家庭学習の内容と学習時間を記入し、提出するよう指導している。また、週末には、振り返りをして次週に生かすようにしている。	6年生では、「家で計画的に勉強をしていますか。」という設問に100%の児童が肯定的回答をしている。また、「学校の授業時間以外で1日1時間以上勉強している。」と87%の児童が回答している。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査において、計算や言語など、基本的な知識や技能に関わる問題の中で、県や全国平均よりも低いものがいくつもあった。	瑞穂野地域学校園で取り組んでいる「がっちり学習」の実施方法の改善や既習事項の確実な定着のための指導の工夫	朝の学習の時間に行っている、プリント学習の間違いを丁寧に指導し、理解を深めていく。また、単元導入時などに、前学年までの内容を復習する機会を設定し、つまづきを克服してから、新たな学習内容に取り組ませ、定着を図れるようにする。